

日時：平成24年10月10日（水）18：30～20：30

場所：八幡コミュニティセンター アリーナ

【 当 日 の 内 容 】

18：30

◆ 開会

18：30～18：35

◆ 本日の進め方（事務局／株ドーコン）

- ・グループ別意見交換の進め方

18：35～18：45

◆ 避難行動の情報提供（事務局／株ドーコン）

- ・基本手順、災害種別の避難時の留意事項、避難所開設の現状の規定、避難行動に関わる資源・現状の確認

18：45～20：00

◆ グループ別意見交換

- ・第1回・第2回の意見交換結果の確認
- ・通常避難者の避難行動の確認
- ・避難所運営の留意点に関する意見交換
- ・要援護者の支援態勢に関する意見交換

20：05～20：30

◆ グループ別意見の発表

- ・各グループ代表者から発表

20：30

◆ 閉会



◆グループ別意見の概要

A・B合同グループ（生振地区）（7名）

- ・生振地区は8～9kmほどの広さを持つ地区であるため、徒歩で避難することは難しい。
- ・避難所まで距離があるので車での避難となり、道路の破損等で通れない場合は、碁盤の目状に道路が通っているため心配はないのではないか。
- ・地区が川に囲まれた地区であるため、橋が倒壊するのではないかと心配。
- ・避難所にある食糧等の備品庫を実際に自分の目で見て確認が必要。
- ・防災策定会議での検討を一般の人にきちんと周知を行い、災害に対する意識を高めていく必要がある。
- ・地域にある消防団を有効活用し、地域への周知を行うと良いのではないかと。



Cグループ（本町地区）（5名）

- ・地震と津波の災害をセットで考えることが前提にある。そのため広い場所より高い場所に避難することが大切。
- ・一方、海水浴場があるため、車で避難する人が多くいると想定できる。そのため車避難をコントロールできるルールづくり（渋滞対策）が必要ではないか。
- ・地区住民は、車を持たない高齢者が多く、一人世帯が多いため、車で避難することはできない。
- ・避難する際も一方向への避難経路しかないため、2方向に避難することができる橋があると良い。
- ・要援護者支援については、自分が避難することで精一杯であり、身内でない限り誰かを支援して避難することは難しい。
- ・避難所の小学校に防災無線があるが、使用したことがないため、訓練などで使用し、きちんと情報の取得手段を確保し、理解しておくべき。



Dグループ（本町地区）（5名）

- ・大津波の場合は、いかに遠くへ逃げるかを考えなければならない。避難所である石狩中学校や高い市営住宅までは、徒歩で避難すると時間がかかるため、実際に訓練し検証する必要がある。
- ・避難場所の備蓄品などの情報をきちんと把握していないので、事前の情報が必要。
- ・避難所にカギが閉まって入れない場合は、入り口を破って入れるように、事前の了解を取るべき。
- ・自主防災組織はあるが、災害時の実際の動き方を把握しておくべきであり訓練が必要。
- ・災害時要援護者に対しては、普段から隣近所での助け合いをする関係づくりが大切。



E・F合同グループ（右岸地区）（8名）

- ・津波災害の場合は、八幡地区から高岡地区へと避難する。
- ・避難所には避難してきた人のカードを用意し、それを用いて班編成やリーダーを決めると良いのではないかと。
- ・自力で避難できない人への支援は、小学校や消防にあるリヤカーやタンカなどを使って避難することができるのではないかと。
- ・それぞれの地域で、地域の内情を知っているため、助けるべき人は把握している。既に八幡地区では要援護者の調査を行っているが、その情報も古くなってきているため更新する必要がある。
- ・夜間の避難の場合は、避難所のカギが開いておらず、管理人がいない事態となる可能性がある。

